

男女

特 101

535

古屋鐵石述

生殖器病獨療法

東京精神研究會



始



物101
535

男女

古屋鐵石述

生殖器病獨療法

東京精神研究會

大正
8. 11. 3
寄贈

同會

寄贈本

明治天皇御製

さしのぼる朝日の如くさわやかに
もたまほしきは心なりけり
廣き世に交りながらいかなれば
せまきは人の心なるらん
そのが身はかへり見ずして人の爲め
津くすや人のつとめなるらん
くにを思ふ道に二つはなかりけり
戦のにはに立つも立たぬも

光格天皇御製

這へば立て

たてば歩めど

急くなり

わが身に積る

老を忘れて

自序

本書には男女の生殖器に就て、獨療法と云ふ名の如く自宅に在て獨で秘密に癒し得る法を書きました、獨療の方法は哲學心理學及び宗教の應用で、藥品も器械も金子も何にも用ひずに癒す法です、殊に文中所々に古今の名歌を挿入する等、獨り肉身の健康を圖るのみに留めず、精神の向上に力を入れて書きました、著者は此法を十七年間に八千五百餘人の患者に試み意外の好結果を得たる經驗により、爰に其大要を摘録して世に公にするのであります、故に獨療の方法は至て簡單であります、實行を永續すると確に大効果があります。

大正八己未歲初秋

著者識

男 女 生 殖 器 病 獨 療 法

目次

第一章	緒言	一
第二章	夢精	二
第三章	早漏	五
第四章	遺精	六
第五章	陰萎	八
第六章	神經衰弱	一
第七章	子宮病	一五
第八章	ヒステリ	一七
第九章	月經異常	一八
第十章	膾炎	二〇

成功不
福不
殖不
如器生
何器生
にの幸

女生殖器病獨療法

第一章 緒言

心身の愉快なると否とは生殖器の健全が大なる關係がある、困難の業務も奮勵して容易に成し遂ぐるも、平凡の業務も倦怠に堪へず、不平に堪えずして中絶する、其原因は多くは生殖器の如何にある、態度風采を見ても生殖器が健全なる人は顔面に何となく締りがある、肉附きがよく、血色がよく、言語動作が活潑で磊落で賑かである、故に何業をしても屹度成功する、之に反して生殖器の不健全なる人は血色悪く態度が沈鬱で淋しい、何業をしても多くは落伍して成功は覺束ない。

目次終

第十一章	子宮内膜炎	二〇
第十二章	悪阻	二一
第十三章	煩悶	二二
第十四章	醜貌	二七
第十五章	精神獨療法	二八
第十六章	妄念解脱法	三五

一家にしても家庭が和樂せざるは、其家庭の中に生殖器に不満の人がある故である、生殖器が健全で満足を得て居れば、金銭なくとも衣食なくとも、其人は精神が愉快で幸福の人である、幾萬の富を有し名譽の地位に在つても、生殖器が不健全で不満足の人には不幸の人である、其不幸の人をして幸福の人となしたる實驗を以下に述べ最後に其獨療法を述べませう。

白がねも黄金も玉も何かせむ
まされる寶子にしかめやも

第二章 夢 精

夢精は俗に「もうぞう」と云ふ、其原因は手淫、過房、包莖、淋病、攝護腺炎、精囊炎、膀胱結核、膀胱炎、會陰部外傷、又は肺勞、腸壁扶斯の快復期等に原因す。

某青年毎夜夢精し心身不快となり、神經衰弱を併發し、困難なりとて本會に來り、依つて後に述ぶる獨療法を話して之を行はしめ、且攝生として成る可く滋養物を食し、入浴の際には冷水を陰部に澆ぎかけ、アルコール性飲料を慎み、生殖器機能の興奮をなさしむるもの、及び心神の過勞を避け、夜間眠る時は側臥をとり、毎朝早起して深呼吸をなし、神社に詣て全快を祈りなさい、と嘶したれば其青年は其獨療法と攝生法とを遵守して怠らず、爲に存外早く全治した尙多くの同病患者本會に來りたる故、右と同様に話したるに十人中八人は癒りたり、癒らざりし十人中の二人は私の獨療法を聽きし丈にて實行せざりし人と、神佛を禮拜する氣になれぬとて、神に平癒を祈らざりし人にてありき、それ故其癒らざりし人は再び本會を尋ねて私の精神療法を受けて全治した、生殖器病は藥物療法に併し攝生法に癒し難い病氣であるが、精神療法に依れば確に癒る、併し生殖器

受術二てら
術三廢はめ
回をなめ

器病者は精神統一し難い、故に術者も被術者も共に忍耐して治療せざれば全治せぬ、僅か二三回位精神療法を受けて精神がよく統一せぬとか、治療に効が見えぬとか云ふて受術を中途に廢めると、全く無効に終ることがある、初め二三回の受術にては精神がよく統一せざることもある、誠心を以て受術を永續すると生殖器病は確に癒る、故に受術し初めたらば全治する迄根氣よく受術しなればならぬ、受術を初め、中途で廢るは恰も建築をするのに柱をのみ建てたら屋根も壁も附けずに建築を中止するに異ならぬ、斯かる事なら初めより着手せざる方が寧ろ得策である、獨療の方法は最後に各病氣を一括して述べませう。

世の中に思ひあれども子を思ふ
思ひにまさる思ひなきかな

原因

豫後

第三章 早漏

早漏の原因は種々あれども、殆んど夢精に同じ、然れども夢精よりは精神の感動によりて起ること、精力の衰へたる者に多い、神經過敏となり、心身疲勞し、神經が弛緩し一定時間抑制する事を得ざる故である、此病に苦める多くの病人に、其原因を調べたるに、過度の心勞か、自爲的遂情か、神經衰弱か、の内何れにか原因して居る此患者に、後に述ぶる獨療法を漸して實行せしめたるに、克己心強くして、朝夕怠らず實行せし人は皆全治した、然し克己心なくして獨療法を少し位實行して廢め、長く實行が續かず、獨療法では骨が折る且長日月を要するからとて本會に來た病人の中に、年少の時より自爲的遂情を行ひたるが原因で、鈍り頭腦不明快となり、今尙廢めんとしてもやめられず、爲に記憶が鈍り頭腦不明快となり、重い神經

衰弱を併發して居るもの多かりし、依つて本會獨特の精神療法を拾
 數回行ふて、其原因を全く絶ち、而して根治せしめた實例が甚だ
 多い、其中最もよく感應せし患者は唯一回の施術を受けしのみで其
 翌日又來りて曰く「生殖器の健康も斯く迄極端に健康となりては困
 る、もう少し弱くして下さい」と、依つて其通りにしてやつたもの
 もあつた。而し斯の如く唯一回にて大効を奏したる例は稀有の實例
 である、故に受術者は初め二三回受術しても何等要領を得ない様
 てあつても、忍耐して受術すると必ず全治する、受術し初めて自分
 考へて中止する位なら、初より受術せない方が寧ろ優つて居る。
 外からは手もあてられぬ要害を
 内より破る栗のいがかな

第四章 遺精

遺精も夢精と其原因を同ふす、只其症候に於て異なる所は、遺精は夢
 を見ず情慾も起さず、勃起もせずして夜間睡眠中に限らず晝間も又
 薄き精液を漏らす事がある、又龜頭の衣服に觸るゝに依り、甚だしけ
 れば便通の際に漏らす事がある。
 此病に苦しむ數多くの患者が、本會を尋ねて曰く、之が爲に身體甚
 だ不活潑となり、記憶力衰へ、神経過敏となり、毎夜安眠が出来
 ぬと、因つて後に述ぶる獨療法を嘶したるに、其結果は夢精早漏の
 場合に於て説けると同一の良結果を擧げました。
 某患者曰く私に罪深い悪人であるから、施術を十回や十五回受け
 しのみでは、到底精神の統一は望まれないと、確い覺悟をして神を
 禮拜しつゝ、受術すること僅か四回にして、目的の状態を得た、其時
 の嬉しさは筆紙に盡せず、神の御蔭と信じ、神に御禮の祈を致しま
 した、從て私が積年苦しんだ病氣は夢の醒めしが如く消へて仕舞

ひました」と語つた。

勘忍の袋を一生首にかけ

破れたら縫え破れたら縫え

第五章 陰 萎

此病氣は男子に限りて罹る病氣である或人曰く陰萎は美ましい、求めずして謹慎する人となり得てよい、と其れは大なる誤りである、生殖器に故障あらんか、其人の精神引立たず、不活潑にして元氣なく、何れの業務と雖も完全に果すこと能はざる、無元氣の怠惰者となるることがある、生殖器が健全であれば、元氣が旺盛である、其れ故此病人は多くは悲觀し沈鬱の人となる、故に此病を別名「無勢力症」と云ふ、斯る患者本會を尋ねたること頗る多い、依て、獨療法を斷して實行をなさしめたるに、夢精の場合に於けるが如く好結

果を擧げました。

某患者は獨療法を一週間實行したるに確に餘程よくなつたが、早く癒したきと獨療法の實行を永續する忍耐力が乏しきために、本會に來り施術を受けた、此患者は初は神佛を信心する氣が起らざりしも、病氣は醫師によるも温泉に行くも何をしても效顯現れず、百方策盡きて初めて神佛を祈る氣になり日夜禮拜を怠らざりし、斯る精神状態となり居りし故、施術の效直ちに現れ、忽ちにして理想の健者ととなりました、併し患者中眞に神佛を祈る氣になれぬと云ふ人は受術の效遅々として全快手間取りたり、即ち神佛をよく禮拜する人が六回にて精神がよく統一するものとすると、神佛不信者は三倍即ち十八回を要して理想の域に達した故に神佛を信心すると早く癒る。氣は長く努めはかたく色薄く食細ふして心ひろかれ

序に陰小のことを申せう陰小は先天性なるもの多し、稀には後天性即ち生後種々なる疾病、手淫、早丸打撲、外傷、重病、熱性病、傳染病等に罹り之がために發育停止して此病に陥ることがある、其他成人後に於ても過交、精神の過勞、等によりて屢々發育不全の狀態に陥り、此患者となるものがある。

此症に罹れる多くの患者が、本會に来て癒りしこと前段數章の諸症に於けるが様である。

本會が多く患者に接したる經驗によれば、此病に罹れる人の容貌は男であり乍ら女に似て柔和の處がある、故に經驗上私は顔面を見しのみで、此症の患者であることを知ることが出来ます。

極樂も地獄も己が身にありて
鬼も佛も心なりけり

第六章 神經衰弱

本會へ一女學生が来て「妾の神經衰弱の症候は數多あつて、一、言ひ盡せぬから此紙に悪い點を記して參りました」と云ひつゝ、差出したる紙を披き見れば、次の如く記してありました。

治療して貰ひたき點。

- 一、頭がぼんやりする、稀には頭痛がする。
- 一、始終つまらぬ事をいためる。
- 一、美味いものは食ひ過ぎて困る。
- 一、何事にも飽き易い。
- 一、忠孝の觀念が眞の心の底から起きて來ぬ。
- 一、話が下手て人を喜ばせることが出來ぬ。
- 一、悪いことゝ知り乍ら夫れがやめられぬ。

一、些細の事を気にする。
 一、音楽が容易に覺えられぬ。
 一、己が容貌以上に美しく人に見せたい、
 一、夏になると水類を飲み過ぎる。
 一、斯うすれば善いと解つて居る事をせぬ。
 一、年上の人の意見が氣にくわぬ。
 一、父母の膝下にあるのを嫌に思ふ。
 一、臆病で小膽。
 一、父母親族及知人が一として自分の爲にならぬ様な氣がする。
 一、汽車や汽船に暈ふ。
 一、異性のことで常に妄想が絶えぬ。
 一、少しのことに涙が出る。
 一、視力弱く非常に明るい室ではまぶしい。

一、さもなき事に腹が立つて堪らぬ。
 一、書物を読んでもよく、意味が解らぬ。
 一、書物を一時間も見て居ると頭が重く苦しくなる。
 一、物覚えが悪くて忘れ易い。
 一、事に當りて是非の判断に迷ふ。
 一、英語が嫌ひで數學が下手で困る。
 一、恐れんでもよいことを恐れる。
 一、何をしてても心の底から愉快と思はぬ。
 一、身分不相應の美衣が欲しい。
 一、父母に心配を掛けるを何とも思はぬ。
 一、労働を嫌ひ身體に樂をしたひ。
 一、何事でも斯ふしよらと思ふとせずには居られぬ。
 一、磊落に快活に愉快に交際が出来ぬ。

一、甘い物が喰ひたい。
 一、人の出世をねたむ。
 一、無意識に不平が絶えぬ。
 一、言葉が足りないで後悔することあり、又言ひ過ぎて後悔することがある。
 一、無暗に新流行の衣服髪飾が欲しい。
 一、矢鱈に物見遊山がしたい。
 一、虚名でもよいから名を挙げたい。
 御恥しい次第ですが、以上列挙せる如き不完全なる肉塊で御座います、斯様の病氣が一てもあつては到底妾は出世は出来ません、精神的の大不具者と思ひます、是等の病弊は悉く消え失せ人並の人間となる様御施術を御願申します」

以上數多の病癖を生ずるに至りし原因は、生殖器の異常よりであ

る、依て私は精神療法を施して治療の暗示をすること九回にして悉く其悪癖を除却し、快活な愉快な人となしました。
 或る重い神経衰弱患者、私の施術に依て全治した、後に窃に思ふ様癒りしは自然に癒りしにて、施術の御蔭にあらず、施術料を只取りされたと思ふや、又二度び重病となりて困るとて來りし人がある、其れは當然です、未だ君は其所以を知らざりしかと大笑して更に施術して癒してやりしことがありました。
 又多くの神経衰弱病者に後に述ぶる獨療法を嚆して實行せしめ、全治せしめた實例が甚だ多くあります。
 よき事は見ても聞いても悪しき事見ざる聞かざる言はざるぞよき

第七章 子宮病

原因

豫後

某紳士の夫人子宮病に罹りて下物があり、足腰が冷え、下腹が痛み或は重い様な感じがし月経が多くなつたり、長引いたり、身體がやせて氣がふさぎ、顔色青くなり見るからに病人らしい。其原因は月經中の不攝生と、痲菌の傳染による、其婦人は金持ちであるから、名醫と云ふ名醫にかゝり、良いと云ふよい療法をしたが全治せざる。とて本會へ來り、施術を受くること十二回にして春雪の次第に消えるが如くに、病氣は失せて根蹟なく、血色のいゝ福々した賢夫人となりました。

又多くの子宮病患者に向つ、後に述ぶる獨療法を嘶して實行せしめ、全治せしめた實例が非常に澤山ございます。

踏まれても根づよくしのべ道芝の
やがて花咲く春は來ぬべし

症候原因

豫後

第八章 ヒステリー

某大家の令夫人神經過敏となり、少しのことが氣に懸り、氣が鬱ぎ、働くが嫌になり、我儘勝手になり、心が變り易く嫉妬深くなり、怒りぼくなり、享主の意見に反抗し、頭痛がし、動悸が高まり、食慾が減じ、秘結し夜よく眠れず、月経が不順になり、時々痙攣を起し手脚が痺れて感覺がなくなる。其原因は先天的の神經質に加ふるに嫉妬の募れると、家庭に不幸のありしことを心配したる結果である、此の奥さんに施術すること十五回にして全く根治し、快活な愉快の奥さんとなりました。

又多くのヒステリー患者に後に述ぶる獨療法を嘶したるに、よく實行したる人は皆全治した、癒らざりし人は獨療法を聽きし丈で實行を少しのみして後廢めた人々であります。

樂といふものを求むる心こそ

身を苦しむるかたきなりけり

第九章 月經異常

私が月經異常の婦女を癒した實例多くの中より、三個丈左に擧げませう。

月經閉止

廿六歳の女妊娠しないのに月經が止まつた、又廿五歳になつてもまだ一度も月經がない、此の女は月經閉止の爲め身體の所々方々が悪い、此二人の女に施術をすること各六回にして、月經が

多月經過

順序正しくある様に癒りました。
月經過多 十九歳の娘月經が非常に多くあり、且つ長引き、時には血の凝結が交ることがあり氣持が悪い、それを三回の施術によりて月經が普通に順序よくある様に癒しました。

月經困難

月經困難 卅五歳になる夫人月經時には何日も非常に身體の工合が悪く、下腹が激しく痛み、強い頭痛がし、神經が昂奮し、手脚冷えて嘔吐することがある、此夫人は私の施術を六回受けられたれば爾後再び其の苦痛を知らぬようになりました。

全治

前記の月經異常の三病人とも、人に知らさぬ様に癒さんとして、内密に賣薬を買ふて永く服用したるも効果がなく、慢性となり開業醫に掛りたり、病院に長く入院して居つたが治せざりしに、私の施術によりて容易に癒りました。

又多くの月經異常の患者に對し、後に述ぶる獨療法を説明してやりたるに、よく實行したる方は私の施術をも受けずに、獨療法のみ癒した方が澤山にあります。

心には綾錦をも着せよかし
身にはついでれの衣着るとも

症候

豫後

第十章 腔炎

某婦人腔炎にかゝり、腔の粘膜炎が腫れ熱してほてり、壓されるやうな感として痛み、帯下がし血のまじることがある、而して顔色は眞青となり、身體衰弱し秘結し、神経が過敏となり、少しの事に怒り悲しむ依つて種々の療法を試みたるも治せないとして、私に施術を乞ふた、私の施術によりて前記の悪い點が悉く取れて、私に健康の人となりました、又腔炎に苦みたる多くの婦人に後に述ぶる獨療法を嚥して實行さし癒した人が澤山あります。

成せば成る成さねばならぬ何事も
ならぬと云ふはなさぬなりけり

第十一章 子宮内膜炎

症候

豫後

或婦人子宮内膜炎に罹り、私を尋ねて曰く、腰と下腹とが痛み、子宮から水の様な物が流れ出て、次で黄色の糊の様な粘る物が下り、内月経は多くて長く、貧血して顔面青く、便秘して頭痛がし、物事に罹り心配絶へぬ、其れを賣薬を用ひたり醫者にも永くかゝつたが如何にしても癒らぬから何卒治療して頂戴と、其婦人私の治療を受くること九回にして全く生れ變りし様な健康の人となりました、子宮内膜炎の患者に向て後に述ぶる獨療法を話し全療せしめし方も澤山あります。

初鴉さくも心の持ち様で
果報ともさゝ阿呆ともさく

第十二章 悪阻

二十五歳になる婦人妊娠して二月目より毎朝空腹な時に、悪心を催し、薄い液を吐き、三月目頃より次第に酷くなり、終には食た物を直ぐ吐く許りてなく、粘りた苦い液を吐き、胃が痛み口が渴き、食物は總て嫌になり、不快で耐へられぬと訴へた、其患者六回の施術にて其症候が悉く消えて、薩張りした健康の人となつた、惡阻は精神療法によると屹度雜作なく癒ります。

後に述ぶる獨療法で惡阻を根治した方も澤山あります。

吹くまゝに風にまかせて争はぬ
柳を人の心ともかな

第十三章 煩悶

(一)嫉妬に基く煩悶 某婦人本夫は品行方正であるところと確く信賴して居た、然るに親類の家で突然本夫の不行跡を聴き、大いに驚き、俄

然失神状態になつた、暫時にして普通状態にはなりたるも、夫れより月を見ても花を眺めても樂まず、悲哀を増すのみ、其の婦人本夫の舉動に注意すると怪しき節のみ多い、煩悶懊惱の結果頭痛がし食慾が進まず、多人數の前に出づるのか嫌になり、自殺せんとせんかぞと思ふ事さへあつた、それ一日其婦人本夫を相談せられた、私には其の次第を語り、本夫の心の變る様な手段を夜睡眠中知れぬ様に催眠に催眠術の奥儀を教授してあげ、本夫が睡眠中知れぬ様に催眠を施し即ち睡眠を催眠に移し、婦人自ら意の儘なる暗示を與ふることを七夜熱心に續けたら、全く主人の心改まり、婦人の理想通りとなり、家庭は圓滿に幸福を以て満するに至りました、又嫉妬に惱める婦人に後述の獨療法を實行せしめ、全く心機を一轉せしめ嫉妬は消えて心の清々した快活の人となした、實例も澤山あります。

又一日某大家の奥さん嫉妬に堪へず、私を訪ねて「お恥かしいこと
ですが、主人（亭主）は近頃何處へ行き遊ぶか夜更けて歸ること
が多い、今主人は何處に何をしておるか千里眼を以て見て下さい
と仍つて私は一名の被術者に術を施し更に神に人格を變換して「其
主人の居る場所を見て話すと、暗示したれば「主人は〇〇球場に
居る、鼠色の洋服で今球を突いて居る、相手の紳士は羽織袴で三十
二歳で好男子である、奥さん曰く「傍に女は居りませんか見て下さ
い」と仍て私は其旨の暗示を與へたれば「女が一人居るゲームの計
算をして居る」と後日其奥さんが云ふに「千里眼は實によく適中し
ました、妾は御宅から歸りに直に車を飛ばして〇〇球場へ行きました
子を見たら、千里眼者の云ふ通りでありました、其事を主人に話
し今後何れに御遊びになつても妾は知りますと申したら、主人は大
に感心し其後は夜も早く歸る様になりましたと語れり、其他千里眼

て紛失物の所在逃亡人の居る家、病人の全快日數、未來の配遇者等
を見て不思議に當つた例が澤山にある、殊に私が中央新聞社の依
頼によりて、溺死者の所在を見て當てた事は人の能く知る所であり
ます、後に述ぶる獨療法にて此種の煩悶を消失せしめ磊落な意志剛
健の人となりし、實例も澤山にあります。
（二）花柳病に基く煩悶、花柳病即ち梅毒、軟性下疳、淋病、消渴
の中何れにか罹り、爲に心氣消沈して悲觀し、仕事は手に着かず倦
怠を生じ、失望し、落膽し、爲に病勢を益々盛ならしむる者がある
又一度罹りし花柳病が癒りしも、それが原因をなして精神及び肉體
上に以外の悪影響を及ぼし居り、爲に有爲の人をして廢物に終らし
むることがある、斯る患者後に述べる獨療法によりて、失望せる心機
を轉換せしめ、力附きて有爲の人となりし例澤山ある、去り乍ら花
柳病には藥物療法を怠らず兼ね行ふがよい。

(三) 失戀に基く煩悶 或娘或人の事を忘れんとしても忘るゝこと能はず、明けても暮れても其事にのみ心を勞し、爲に從來記憶がよくて學校の成績も優等なりしに、それ以來は學校の成績も劣等となり遂に寝たり起きたりしてゐる、顔色は蒼白となり、身體は瘦せ、歩行踉蹌として調はぬ、心悸亢進して呼吸は苦しげなり、消化は不良にして食は進まず、然るに父母は此病源を知らずして、醫藥を進め湯治を爲さすと雖も寸効もない、遂に其の母病源を悟り、或は諭し或は戒めて心機を轉換せしめん、と欲すれば欲する程病氣は一層重くなる、百方策つきて本會に來り其母催眠術を習得して其娘に施したるに、忽然として催眠状態に陥りた、由りて病源失念身體活潑の暗示を與ふること十五回にして、全く別人の如き愉快な快活な人となり、よく父母に孝養を盡してゐる。

又或一青年失戀の極悲觀に陥り、學業手につかざりしが、其青年は

第十四章 醜貌

後に述ぶる獨療法を百折不撓の精神にて實行すること六ヶ月にして全く心機一轉して磊落な勇壯な青年となつた、併し尙一層心身健全なる人とならんとて、尙獨療法を怠らず實行してゐる。

人をみな吉野の山の花と見よ
われを難波のあしと云ふとも

某成金の令嬢金のあるのに委せて、衣服髪飾に善美を盡すと雖も、天性醜貌にして氣品に乏しい、嫁入盛りの年頃になりたるも良縁なく、悲觀の極本會を訪ねて相談した、依て私の施術にて目元口元に愛嬌を持たせ、顔を生々とならしめ、態度をば磊落とし、言語を優美ならしめ、氣品を高尙にしたれば、全く別人の様に美しくなつた、醜貌の人にて後に述ぶる獨療法を實行し、術者より施術を受け

しと同様の効を奏した實例は乏しくない。
 此外種々な生殖器病に罹り、藥物療法、電氣療法、溫泉療法を多年
 試みたるも治せざりし病人を癒した實例は澤山にある、疾患中藥物
 にて癒せるものは藥物にて癒すことを御勧め申します、藥物療法と
 共に獨療法を行ふと最もよい、又藥物療法を如何程行ふても癒らぬ
 病人は是非共獨療法と他人療法とを問はず精神療法を行つて全治せ
 しめるがよい、精神療法の特徴は藥石の効なき病氣と惡癖とを癒す
 點にあります。

事足れば足るに任せて事足らず
 たらて事足る身こそ安けれ

第十五章 精神獨療法

精神獨療法は自分の妄想雜念を去つて精神を變てし而して自分で自

分の病氣は癒つたと強く心に思ふ、其確信が強ければ其確信通
 りに細胞は活動し、血液も筋肉も病氣を癒し得る様に活動して癒る
 のてある、これは心にて潰梅を食ふたと思ふと唾液が出ると同じ道
 理である、併し普通にては現に病氣に苦しみ居りては癒ると思はう
 としてもさう思へぬ、故に獨り種々の手段を盡して妄念雜念を拂ひ
 て心を清々とし癒ると云ふ觀念を起し、其觀念を益々強める方法が
 即ち精神獨療法である、此法は獨り生殖器病のみに限らず、何病に
 應用しても的確の効がある、其法を次に述べませう。

(一) 初め第一日は單に準備のみをする、先づ男子なれば理髮所に
 行き理髮し、女子なれば髪を洗ひ髪を結び、入浴し爪を切り薩張し
 た衣服に着し代へ、神社又は佛閣(何れの神佛を問はず)に參詣す
 ること、午前一度午後又別の神社に一度參詣をし平癒を祈る。
 因に云ふ神佛を祈る氣になれぬと云ふ人がある、そう云ふ人は自分

ては自分の思想の不健全を知らずに居る人である、さう云ふ人は何
日か必ず終生忘るゝことの出来ぬ煩悶に陥ることがある、神佛の有
り難きことを知らぬ人と雖も、神前に向ひ禮拜すると心が清々する
祈る一刹那は妄想雑念が消えて心が清々する、それが健全になる端
緒である。

(二) 次の第二日目には深呼吸のみをする、静かの室に自分獨りの
み居りて、正しく坐して下腹部に力を凝めて深呼吸をなし、吸氣の
時下腹を膨まし、呼氣の時下腹を窪ます、其呼吸を心にて一すり五
十迄計算することを五遍行ふ、此五十回五遍の深呼吸を起床より就
床まで二時間距てに行ふ、殊に夜床中にて最もよく行ふ、而して深
呼吸中は其呼吸のことにのみ精神を集め、他の事を思はぬ様にし、
其計算を怠らぬ様に注意するとよい。

(三) 第三日目には祈禱のみを行ふ、静の室に自分獨りのみ居り正

坐して「神(佛様にても可なり)様私は神様の御前に罪を犯し、そ
れが爲に病人となりました、どうか此愚なる私を御救ひ下さい」と
祈る、生殖器病の起りし原因をよく尋ねて見ると、何か自然の天理
に背いたこと即ち神の御前に罪を犯したことがある、それが原因と
なつて居る、其罪を神様が御責めになるのであると悟り、我罪の恐
ろしきを悟りて後悔し、且神様に向ひ心の中で自分が犯した罪の數
々々を悉く懺悔し、自白し、どうぞ神様私の罪を許し元の健全の
身體にして下さい、と黙禱すること十分時間此祈禱を起床より就床
迄の一日中に、二時間距てに行ふ、最も今就床せんとするるときと起
床したばかりの時に行ふがよい。

(四) 第四日目には拳握を行ふ、静室に獨にて居り、直立して又は
正坐して、左手にて左側の帯を握り、下腹部に力を籠め右手を握り
て固き拳を作り、振り擧げ遺精なれば「遺精は癒つた」早漏なれば

早漏は癒つた、其他の病氣は之に準ずると強く口中にて獨語しつゝ、
下腹に觀念を練り込みつゝ、振り擧げし拳握を下に打ち落すことを
年の數ほどなす、起床より就床迄は二時間距てに之を行ふのである。

(五) 第五日目には筋固緩を行ふ、夜寝るときは如く静室に布團を敷き、自分獨りのみ居り其上に仰臥して布團を覆ひ兩手を兩側に垂れ、兩足を伸ばし、身體を安樂に居らしめ、兩手を堅く握る、兩足に力を入れる、其手を益々堅く握る、兩足に益々力を入れる、斯くして其儘に五分時間を過ぎて、後兩手の筋を緩め、兩足の筋を弛め、尙益々大に弛める、而して卅分其儘で居る、斯くして居る間に一睡すると最もよい。

この法を起床より就床迄一日間に午前二回午後二回都合四回行ふ、且夜床中にてよく行ふのである。

(六) 第六日目には觀念のみを行ふ、前段の如く布團の上に仰臥し布團を覆ひ心を沈めて呼吸を靜かにし、呼吸の音が少しも聞えぬ様に靜かにし、之で私の病氣は癒る、癒る、健康になる、健康になる、之は着手より、終りに静かにし、之で繰返して堅く觀念するのである、之は着手より、終りまで一時間行ふ、朝起床より就床迄の一日間に五回午前二回午後二回夜間一回行ふ、殊に夜床中にてよく行ふのである、斯くしつゝ一睡すると最もよい。

(七) 第七日目には前述の第一、二、三、四、五、六、の六日間に次、の順序に行ふのである、第一は準備として行ひ、而して

- ハ、拳握……………を五分時間……………一日に三回……………午後三時
- イ、深呼吸……………を十分時間……………午前十時
- ロ、祈禱……………を五分時間……………午後三時

二、筋固緩………を十分時間
水、観念………を卅分時間

(就床時九時)

之にて一回を終るのである、此治療法を一日の中に三回行ふ、即ち午前一回十時に午後一回三時に及び就床九時の三回行ふ、輕症は三週間重症は二ヶ月間一度も休まず續くと必ず全治する、生殖器患者の多くは焦りて急に癒さんとするが、それは六ヶ敷いから氣は長く此治療法を行ふに如くはない、然ると確に全快することを保證します、若し前記の法を長く實行する勇氣の乏しきものは、本會へ來れば最も早く全治せしめてあげる、術者に就き受術する人と雖も、二三回受術せしのみで、精神がよく統一せぬからとて、受術を中止し他の療法を試むる如き、間違つた考を起してはならぬ、生殖器病で受術を初めたら、初め六回位は精神の統一は得られぬも、尙熱心に受術して居ると、屹度理想の状態を得て全治する、故

に此事をよく含味して、僅か二三回の受術で癒らぬ先に、受術を中止する如き不心得のない様に、萬々注意せなければならぬ、而して術者につき術を受けて癒さんと欲する人も、此獨療法を一週間位實行して後に尙行ふと効果が早く現はれる、屢々注意すべきは實行である、實行せずして癒らぬは治療法の惡しきに非ずして、患者の惡しきである、この意を體してよく實行して下さい、又患者中精神獨療法を實行する丈の克己心がなく、本會に來て受術する丈の餘暇もない人は、遠隔療法を自宅に居り乍ら受けるとよい。
よしあしは人にはあらでわれにあり
すがた直くて影はまがらず

妄念と病氣 病氣の根元は妄念による場合が多い、妄念其物は既に

第十六章 妄念解脱法

病氣だ、故に妄念を拂ふことは病氣を癒し、健康を増進し、精神を統一し、能率を増進する基礎である、依て以下は之が修養となる説

を紹介しませう。神靈は我魂、神を神と思はず、佛を佛と思はず、祖先を尊敬せずして、何て此の靈體一致の至誠の心が出ようか、神より賜はりし心を開かず一寸先は暗闇であるから、賣國奴も出来れば、親殺し夫殺しの、大罪人も生ずる、心に此の至誠がない人には、高位高官の人や、社會の上流に立つ者でも憫れなもので、永久の平和と、慰安は得られぬ、所謂、神佛に見放された人で、やがて己が身より出づる焔に焦されて、無間地獄の苦を受くるのは明かである。神佛の靈が我魂であることが、合點できれば、軍人としては忠勇義烈の徳が、自づから煥發し、文官としては文官、商人は商人、工夫は工夫で、皆な、安全な生活を遂げ、一身を豊かにし、一家を平和にし、

國家に貢獻することが出来て、子々孫々に家系を傳へ、富貴繁昌疑ひなきことである。

よひ事も悪いと見ゆる不仕合せ

悪いもよいと見ゆる開運
人格の高下、人格の高下は何に依つて之を定むるか、學問藝術の多少、勳位、爵位の高下に依て定まる者でない、貧富貴賤に依つて定まるものでもない、之等を超越したる處の道徳心の進める者、犠牲心に富める人を人格が高いと云ふ、犠牲心が發達し、圓滿し充分なる時は、人間として神となるを得、乃木大將は金なく學なかりしも、此犠牲的精神に富みし故、神として其名萬代に朽ちぬ、人類國家の爲め、生命を捨て、自己を省みずよく盡す人は神である、佛である宇宙萬有を見よ、無數に助け合ひ持ち合はうて居る、之れ即ち天理である、人間も又世の爲め人の爲めに、全力を捧げて獻身的に働かね

ばならぬ。

世の中は駕籠に乗る人擔ぐ人

尻のいたさに肩の痛さよ

蓄財と道徳 蓄財は人生に於ける最終の目的ではない、人間たる道に反せぬ様に即ち道徳に於てせぬ様にしたいからである、然るに世人の中には道徳を無視して蓄財せんとする者がある、之れ本末を顛倒した者である。犠牲獻身 國家の爲め、陛下の爲め、同胞の爲めには至誠を以て事に當り、己が生命、己が眷族、己が財寶の總てを擲つて顧みざる、否却つて其れを名譽とし、快心とする心掛けていたのである、吾人は單に自分一人が安心に榮耀榮華にやれよとの考へてなく、吾人は國家の一員である、國家は同胞の團體であるから、國家をして同胞をして泰山の安きに置かなければならぬ、其れが爲めには困

難も困難と思はず、艱苦も艱苦と思はず、各其分に應じて盡したいのである、

國の爲めかねてさげし身なりせば

火にも水にも何おそるべき

内の享樂 鳥田三郎氏曰く、人一度び永世の信仰を失ひ「唯だ此の現世あるのみ」てふ考へに落つれば、其の放埒誠に止まる所を知らざるに至る、一體人間の快樂は常に新しきもの、新しきものと追ひ求めて行き止まる所を知らないから、美食も毎日では甘からず宮殿も慣れると嬉しくない、人間一度び精神的愉快を失ひ、肉體上の快樂のみを追ひ求めることゝなれば、此の心理の致す所として、妙なこと變なことを樂むに至り、人間の慾は悦ぶべからざる所に發達する、永遠の生命を求むるか、肉體の快樂を求むるか、之れが靈性的に生きるか、禽獸的に生きるかの分岐點である、現在の快樂を

のみ求めて居れば、學術も富も威力も之を救ふことが出来なくなる。何を以てか之を救ふ、曰く只宗教の力によるのみ、宗教により肉の享樂の慾望を棄て、永遠の生命を求めにある、嗚呼求めべきは永遠の生命である。

失敗の源因 何事によらず人を相手とすること、失敗し煩悶する者の多くは、よく考へて見ると、何日か道徳に反したることが原因となつて居る、成功不成功、煩悶快樂の別る處は、道徳を履踐すると否とにある。

不動心 孟子の説に不動心は必勝と無懼の精神にありと、何事でも必ず成功すると否とは其れに付ての確信と何事も懼れざる決心にあり、精神の過勞甚だしきに至ると終に此精神に弛みを生じて心動き失敗に終る、大に修養すべきである。

憎むともにくみ返すな何時までも

至誠如神 にくみ憎まれはてしなれば
 明治十五年一月四日軍人に下し賜りたる勅諭の結文に宣はせられて曰く「心だに誠あれば何事も成るものぞかし」と、心だに誠あれば何事でも屹度成功する、吾人の行ひ中成功せざることは誠が足らざる故である。成功せざる其罪は吾にあり、又誰をか怨まんとやである。

運は天に任せ 昔二人同じ船に乗りてゆくに、一人は性急にして日和あしく船の遅さを苦し、晝夜心を悩まし、食も進まず、一人は心静にして船の遅さを苦しせず、よく食しよく寝ねて顔色うるはし、目的地に着きしかば二人一時に陸に上る、この間船をそきとて心をくらしめし者、何の益があるか只自ら苦しみたのみ、是は心短き人の戒めである、天下の事我が力になし難きことは、只天に任せ置く可きである、苦しむるは愚である。

涼しけりや涼し過ぎると人の口

朝の祈禱 毎朝起床直に私は左の祈禱を致します。

「神様昨晚中私を御護り下さいまして有り難ふございます、何卒今日一日は心が清らから居ります様に、心の平和を亂しませぬ様に世の爲め人の爲めに力を盡し、人を喜ばすことが出来ませぬ様に私を善人にして下さい、肉體をも健康にして、幸福の人とならしめた

まへ 晩の祈禱 毎夜今臥床に入らんとするときに私は次の如く祈りま

す「神様今日一日私に生き延びたことを有り難く感謝致します、今日一日の中に私が行つたことの中に悪かつた所は、何卒御赦し下さい、臥床に入りましたら何事も安心して、夢を見ず朝迄一ト眠りによく眠られます様に、明朝起きましたらば明日は今日よりも一

層心の清らかな肉體の健康な人となります様にならしめたまへ。満月は欠月 満月に達すれば其れよりは又次第に月は缺ける、人の榮枯盛衰も又然ふてある極點に盛ゆなれば又次第に衰ふるのが自然である、何事も不充分がよい、不充分は之より益々盛んに進む餘地があつて嬉しい、花は満開よりも蕾がよい。

飲まるゝときは弱とぞなる

憤怒は敵 如何なる場合にも憤怒してはいかぬ、敵をも愛するの度量がなくては大成功はせぬ、憤怒の爲に敵を造り、身を亡ぼした例は日々新聞紙の三面に見えてゐるよい戒めである。農學博士稲垣乙丙氏米國を視察し歸りて曰く、日本人は怒り易い悪い缺點がある、何か氣に入らぬことがあると直に憤然として怒り、陰に廻りて怪いことをする、其缺點がある故に白人に嫌はるゝと、

又曰く日本人は何事をなすにも充分に利害の講究をせず、遠大の計書を立てずして、よいと思ふと直に輕擧する、悪い癖がある、爲に失敗すると。

多年米國に在つた焼山泰肥君曰く、米人は商品を客に示す場合に、何度にも懇篤に説明して示し、又は何度にも品を代へて見せ決して倦まぬ、其努力は實に敬服すべきである、而して品を客が買はずとも決して嫌な顔をせず、御世辭をふり蒔くと云ふ。

下見れば我に増りしものもなし

笠とりて見よ空の高さを

慰藉の報酬 英詩人ジエームススミス氏或晩ストラカムと云ふ金持と食卓を共にした時、ストラカムが痛風のために足の自由が利かなくなつてをるを見て「君の足の利かないのは全身の精力を貯へる爲だ」との意の八行の詩を作つて、贈つた、處が其御禮としてストラ

カムは三萬圓を贈つたといふ、病人に對する慰藉之れ實に大なる力である、人は慰藉なく聲援なき爲に失敗し失望したる者幾何ぞや、日々の新聞に見ゆる自殺なども、若し慰藉あらば、必ず救はるゝもの。

凡人の缺點 異性に對して高潔の心事を缺くのは大なる缺點である、又何に限らず重要な事を爲すに當りて、智者長者の意見を聽き、而して實行せざりし故に、人に話せぬ失敗を重ね、煩悶を重ねた、大に鑑むべきである。

長命は朝起をして晝寝せず

酒色控へて獨り寝をせよ

精神力の破産 近頃我國の狀態は、何事を爲すにも葛藤に葛藤が重なり合ひ、限りある精力を以て限りなき複雑せる事業に當らなければならぬ、爲に精力が盡き、疲勞の極臆病の人となる、終には思想

と行動の、矛盾を來すこととなり、或は判断を誤り、或は談判に臨み正當なる自説を曲げて讓歩し、相手方の不當を知りつゝ其要求を入れ妥協す、左もなければ横着にも一時の誤魔化しをする、斯の如き荒み來つた人をして光風霽月威風堂々たる人とせんには是非共神に頼り修養を積まなければならぬ。

忠義の眞義 忠義は道德の中最も缺く可からざる要素で、忠義は普通には君臣の間に限られ、皇室に對する道德とのみ思はれて居るが實は然ふてはない、忠義を推し擴めると、人が人に對しての道德である、君に忠なるが如く、親に對しても、主人に對しても、忠を盡さなければならぬ、之れ即ち孔孟の仁、釋尊の慈悲、キリスの愛である、之を實業的に翻譯して云へば、總ての華容を尊敬し、決して嘘を云はず、親切に丁寧にする事である、忠義は人間萬事に應用し得る普通の道德である

斯くて此忠義を守つた人は榮え、幸福となるのである。

我につらき人にも我はよく當れ

亡國の因 彼の西班牙は四百年前には世界第一の強國であつた、南北亞米利加は西班牙の殖民地であつた、東洋の比律賓、南洋の島々亞弗利加も西班牙の殖民地であつた、其殖民地より取り立てた税金が多額で、當時世界第一の富國であつた、爲に國民は労働を嫌ひ國が道德が廢れて、自國の存在を無にする事にも樂な仕業に従事する民道徳が廢れて、自國の存在を無にする事にも樂な仕業に従事するると云ふ風になつた、爲に其強國が亡びて見る影もない様になつた又殖民地の人民を酷使したから、殖民地の人民に國民道徳は全然なくなり、却つて本國に反抗した結果西班牙は亡びた。

道德の友 人が此世で生活をするのに、互に同情し互に助力し合はなければ誠人に人世の不幸である、只一時の慾の爲に目前の利益を争

ふなどは、十分に人生の利益を辨へて居らぬからである。眞の朋友は是非利害の關係を離れて、互に相信し相助け、共に人道の爲に盡すことに力めなければならぬ、其關係に愛が主となつて居らなければならぬ、言葉を換へて云へば道德の友でなければならぬ。

上見れば及ばぬ事の多かりき

無上の喜悅 笠きて暮せ人の世の中
森村市左衛門翁曰く、人間は心の中に神を宿さなくてはならぬ、正直の頭のみ神は宿るのである、邪念があり妄想があり、慾張りがあり魂性曲りがあると、どうも頭の中に神様が宿らぬ心を清くしたいと思ふても清くならない、修養して心を清くし神様が心の中に宿つた時の嬉しさは、億萬の富第一の位、どんな物にも例へることは出来ぬ。

爵位た優る者 横濱商業會議所會頭大谷嘉兵衛氏曰く、金も爵位も欲しくない、働くのは或は金を得たい爲か、地位を得たい爲か、否唯精神を磨くにある、金や地位は何かて無くなることがある、無くなれば最早にもない、磨いた精神は何者に逢ふても無くなることがない、地位は卑くても精神が立派であれば、不意の災難に罹つても、世間の同情によりて決して困る様のことはない、磨いた精神ほど尊ひものはない。

そんなにくよくよをしてはなひよ

人間と動物との別 氣から病は出るわいな
人間の本務は道德的理想の實現である、故に吾人は如何に些少なることにても、一舉一動、一秒一分と雖も、道德に背反してはならぬ、斯る大なる使命を以て居る生命である、本來人間は社會的存在物で共同生活の一員として、大なる意義を持つて

居る、人間は公共のため、共同の爲に生活し活動すべき事となつて居る、地に満足と與ふることによりて、己に満足を與へようとするところが共同生活の本旨である、之れが道徳上の本務、衷心の要求である、吾人は必ず斯る本務を遂行しなければならぬ、之を遂行して初めて人間は伏仰天地に、恥ぢざる満足が得らるゝのである、子は親に孝行し國民は國家に忠義を盡すことが人間の遂行すべき道徳的本務である、自分自身の眞の要求である、道徳的の理想を持つて居ると否とが人間と動物の差である、道徳的の理想を實現して初めて人格が具るのである。

剃りたきは心の中の亂れ髪
頭の髪は兎にも角にも

國家主義人道主義 吾人は共同生活の一員であるから、我身は我一人の我身に非ずして天下國家の一分子である、其意味に於て我を

自尊し自重し、己れを満足せしめん爲の自愛は博愛と化する、眞の自愛と眞の博愛とは一致して居る、眞の自愛眞の愛國、眞の博愛は人格として同一の道徳的活動を異りたる方面より見て、名づけたる名前に過ぎない、理想としての國家主義人道主義は之である。自己の缺點 自己の缺點を考へては其れを筆記し壁に掲げて置き、日々三省して此缺點を矯正する様、觀念することを幾度も重ねる様にすると終には缺點が除かる。苦悶は神罰 自己の煩悶はよく之を考察して見れば、自己の造れるものである、自己の不心得より煩悶の原因を蒔いたのである、然るに茲に氣付かずして、某々が斯々せし爲めである、とのみ妄信し其人を怨む者がある、然し乍ら自己の行ひの悪かりし事及び自己の煩悶は神前に罪を犯せし故なる事を自覺し、此心を改めなば、永遠に幸福の人と變り得るのである。

物心の富如何に巨富を積むも、如何に社會的地位が高まるも、其れに依て精神的の缺乏は補はれるものではない、而して又人は或る程度の富を積み、或る程度の地位に達した後、翻て自己を顧るときは其處に落莫の感なきを得ない、而かも此時に當つて己れに安定の道を導く丈の精神的教養を缺く時は、煩悶に陥るのである、彼の富豪の妻女がヒステリーとなり又其子弟に自殺者を出だす等の事を以て見ても知り得べきである。

仙人は不養生せず腹立てず

物ほしからずそれで長生

同情同感 總て人は他の人の助けを受けず他の者の力を藉らず、孤立しては生活し得ざるものである、人は互に同心協力して自己の生活を計る必要がある、夫れ故に人には同情同感が必要である、人は他の人の助けを受けて己れの命を保ち、又己れの力を伸ばす様にな

つて居る、此の必要は世が文明に進め進む程増して來のである。忠恕 忠は忠實の真心、己れの生命を以て向ふのである、恕とは心の如しと書く、自分の心を以て人を推測するので卑境は思遣りてある、上御一人に此の思遣りといふ御心があらせらるれば、臣民は皆其處を得、若し吾々臣民互に思遣りがあるれば、上は君に對し奉り親に對し兄弟に對し同僚に對し、何等衝突矛盾を來すことはない、資本家にして思遣あらば、労働者を虐待し自己の利益のみを圖るとはなひ、又労働者にして思遣の心を有せば、無闇に事情の如何をも顧みずして資本家に對して賃金値上を迫る事もあるまい凡ゆる社會上の缺陷凡ゆる社會上の不平は各人思遣を以て相對しなば之を除き得べく、凡ての人々は洋々春の如き平和を樂しむを得む。

雲井より上なる空に出でぬれば
雨の降る夜も月をこそ見れ

神に頼まぬ人 人間には種々の慾望が生じて、際限がない。其慾望は決して悉く思ひ通りに成るものではない、却て大失敗に陥り、落膽し悲觀する事が多い、吾々は此失敗の場合に毫も悲觀する事なく、益々勇氣を鼓舞する人たらず、吾々は此失敗の場合に、此に於て何等の不平なきのみか、人間の最も恐ろしいとしてある死に臨んでも從容として恐れず、誠に安らかに一生を送らむ事を願ふものである。而して人間の精神が行詰り、人間の力にては如何とも致し難いと云ふ極點に達した時、初めて神靈の或物に觸れ、此處に初めて神に頼ることとなる、故に神に頼まぬ人は、一面より見ればまだ苦勞の足りない人である。

大慈善 英人リデル嬢は熊本縣に同春病院を建て、佛國宣教師テストウキーヤ氏は静岡縣の富士山麓に神山病院を建てた、共に外國人として、日本人の癩病患者を收容し無料にて治療しつゝある。

實に感ず可き事ではないか。境遇の感化 嚴寒の候深夜道を歩めば、寒さ身に泌み身體冷却す、虚弱者は直に風を引くも、強健者は然らず、之と同じく不徳の人々の中に混り居らば自然に不徳に感化され終には身を誤るに至る。修養ある堅固の人は不徳に接すも、感應せなひ、而し更に不徳に接せないに如かずだ、境遇人を感化す朱に交れば赤くなるとはかゝる事を云ひしものである。

世の中の人には知ねど科あれば、我身を責むる我心かな

敵を造る心 人の意見は境遇によりて變る。血に交れば赤くなるの類である。人をして自分の敵とするも味方とするも、其意思となる境遇を與ふると否とにある。自由平等を主とせる英佛米は榮え、壓制を事とせる露獨の滅亡を見て大に鑑むべきである。個人間の消息

ミズル
トンの
詩國の

も又然りてある。軍備を擴張して、弱肉強食主義を實行して、弱國を滅ぼして之を我領土とするは、個人間に於ける強盗である。

一、夫の深き愛情と
老いぬる我身は若返り
赤兒の罪なき微笑とに
罪の心も浄めらる

一、いとしき妻の愛により
千尋の底の寶より
慰めらるゝ樂みは
尚優りたる價あり
二、我家に近づく其時に
散りゆく香にくらぶれば
吹く春風につれられて
董の花も何かせん

女生殖器病獨療法終

大正八年九月十日第一版印刷
大正八年九月廿日第一版發行

女生殖器病獨療法

著者兼 發行人 古屋景晴
東京市芝區琴平町三番地

印刷人 堀直江
東京市芝區南佐久間町二丁目三番地

印刷所 大國印刷株式會社
東京市芝區南佐久間町一丁目三番地

東京市芝區琴平町三番地

發行所 精神研究會

大賣捌所 東京市神田區表神保町 東京堂

電話新橋 一八七五番
振替口座東京 二三五一番

精神研究會
發賣品目錄

外國は送料を別に申受く

古屋鐵石著 (送料各册内地拾八錢)

●高等催眠學上下

各册定價 金四圓五拾錢

古屋鐵石著 (送料内地三拾六錢)

●催眠術寶典

定價 金七圓五拾錢

農商務省實用新案登錄濟

●復式催眠球

價郵稅共 金一圓廿四錢

博士學士五十有餘名論集 (菊大版一百一十二頁)

●不思議の研究

價郵稅共 金六拾四錢

パーキンス博士發明品模造 (金屬製)

●催眠治療具

價郵稅共 金一圓七錢

明法學士兩宮良作先生著

●文章取締法規詳解

價郵稅共 金四拾八錢

寫真版刷三枚 壹組

●催眠術繪葉書

價郵稅共 金拾七錢

古屋鐵石著

●催眠術治療法

價郵稅共 金六拾四錢

古屋鐵石著

●驚天動地催眠術獨習自在

價郵稅共 金四拾七錢

古屋鐵石著

●神靈治療法

定價郵稅共 金一圓七十錢

古屋鐵石考案 (金屬製品)

●催眠疑視球

價郵稅共 金九拾錢

井上圓了博士序 大野美惠丸著

●催眠學薰習講話

價郵稅共 金一圓卅八錢

米國製模造品 (臺灣清國に送料參拾錢)

●プランセツト

價金七拾五錢 送料金拾八錢

古屋鐵石著

●秘密獨習女催眠術

定價郵稅共 金八拾六錢

獨立亭成功著 (附田舎生活副業法)

●男女東京で自活する法

價郵稅共 金三拾二錢

松本天籟著

●靈魂不滅論

價郵稅共 金貳拾七錢

東久世伯爵題 高波博士序 古屋鐵石著

●催眠術獨習古

價郵稅共 金六拾四錢

編額

●用適催眠術實驗寫真版

價郵稅共 金拾七錢

古屋鐵石著

●催眠法律論

價郵稅共 金三拾錢

古屋鐵石著

●催眠宗教論

價郵稅共 金六拾四錢

本會機關雜誌

●國民道德

定價郵稅共 金三拾錢

古屋鐵石著 四册

●精神療法講義錄

價郵稅共 金六圓

古屋鐵石著

●座禪獨習法

價郵稅共 金六拾四錢

古屋鐵石著

●自在自己催眠

價郵稅共 金六拾四錢

獨習

●宗教奇蹟研究

價郵稅共 金六拾四錢

古屋鐵石著

●男女運命豫知術

價郵稅共 金六拾四錢

伊藤公府題 井上博士序 古屋鐵石著

●驚神的大魔術

價郵稅共 金九拾四錢

嘉納講道館長題 松本博士序 古屋鐵石著

●氣合術獨習法

價郵稅共 金七拾九錢

東久世伯爵題 古屋鐵石著

●應用家庭禁厭術

價郵稅共 金六拾四錢

古屋鐵石著

●新案神經衰弱獨療法

價郵稅共 金三拾二錢

精神療法

適應症

一、**施術受附時間** 午前九時

但月曜日大祭日休業

一、**施術料** 第一期(参回分) 金参圓、六圓、十五圓の三種

一、**出張施術料** 第一期(参回分) 市内金拾五圓以上

既納の施術料は施術を中止するも返金しません。

吃音、寢小便、小膽、強迫観念、癖、記憶減弱癖、思考力おとろへ、はんだんりよくのおとろへ、衰、判断力衰、意思薄弱、赤面、癖、船車暈癖、飲酒癖、喫煙癖、潔癖、倦怠癖、交際下手癖、神經衰弱、生殖器障害、此他藥物無効の病癖、遠隔療法無料(但雜誌國民道德代を金参圓以上拂込ある者に限る)

終

